

平成24年度
博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [採択時公表]

機関名	京都大学	機関番号	14301
1. 全体責任者 (学長)	<small>※ 共同申請のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。</small> <small>(ふりがな)</small> まつもと ひろし 氏名・職名 松本 紘(京都大学総長)		
2. プログラム責任者	<small>(ふりがな)</small> みなと ながひろ 氏名・職名 湊 長博 (京都大学大学院医学研究科 研究科長)		
3. プログラム コーディネーター	<small>(ふりがな)</small> ふくやま ひでなお 氏名・職名 福山 秀直 (京都大学大学院医学研究科 医学系専攻教授)		
4. 申請類型	I <複合領域型(生命健康)>		
5.	プログラム名称	充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム	
	英語名称	Training Program of Leaders for Integrated Medical System for Fruitful Healthy-Longevity Society	
	副題		
6. 授与する博士 学位分野・名称	博士(医科学)or博士(人間健康科学)or博士(工学)or博士(薬科学) 付記「博士課程教育リーディングプログラム・充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラムを修了したことを証する」		
7. 主要分科	((① 基礎医学) (② 人間医工学) (③ 外科系臨床医学)) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	内科系臨床医学、機械工学、複合化学、材料化学、材料工学、プロセス工学、ナノ・マイクロ科学、生物科学、生物分子科学、経済学、数学、薬学、歯学、境界医学、社会医学、看護学、医学物理学・放射線技術学、メカノバイオロジー、エピジェネティクス、再生医学・医療、睡眠科学		
8. 主要細目	((①) (②) (③)) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	医用生体工学・生体材料学、医用システム、リハビリテーション科学・福祉工学、ナノ材料・ナノバイオサイエンス、マイクロ・ナノデバイス、ケミカルバイオロジー、合成化学、高分子化学、生体関連化学、機械材料・材料力学、流体工学、熱工学、知能機械学・機械システム、生物機能・バイオプロセス、機能生物化学、化学系薬学、物理系薬学、解剖学一般、生理学一般、薬理学一般、医化学一般、人体病理学、実験病理学、免疫学、医療社会学、疼痛学、法医学、内科学一般、消化器内科学、循環器内科学、呼吸器内科学、神経内科、代謝学、内分泌学、血液内科学、感染症内科学、小児科学、皮膚科学、放射線科学、外科学一般、消化器外科学、胸部外科学、脳神経外科学、整形外科学、麻酔・蘇生学、泌尿器科学、産婦人科学、耳鼻咽喉科学、眼科学、小児外科学、形成外科学、救急医学、歯科医用工学・再生歯科学、矯正・小児系歯学、歯周治療系歯学、地域・老年看護学、医用物理学・放射線技術学、メカノバイオロジー、再生医学・医療、睡眠科学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	医学研究科医科学専攻、医学研究科人間健康科学系専攻、工学研究科機械理工学専攻、工学研究科マイクロエンジニアリング専攻、工学研究科材料化学専攻、工学研究科分子工学専攻、工学研究科高分子化学専攻、工学研究科合成・生物化学専攻、工学研究科化学工学専攻、薬学研究科医薬創成情報科学専攻		
10. 連合大学院又は共同教育課程による申請(構想による申請も含む)の場合、その別	※ 該当する場合には○を記入		
	連合大学院	共同教育課程	
11. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

(機関名:京都大学 申請類型:複合領域型(生命健康) プログラム名称:充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム)

15. プログラム担当者一覧

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成25年度における役割)
(プログラム責任者) 湊 長博	ミナト ナガヒロ	61	医学研究科・研究科長	免疫学 医学博士	博士課程教育リーディングプログラムの責任者
(プログラムコーディネーター) 福山 秀直	フクヤマ ヒロナオ	62	医学研究科・医学系専攻・教授	脳機能イメージング 医学博士	博士課程教育リーディングプログラムの統括
渡邊 大	ワタナベ ダイ	49	医学研究科・医学系専攻・教授	神経科学・分子生物学 医学博士	基礎医学の教育・研究指導
萩原 正敏	ハギハラ マサトシ	53	医学研究科・医学系専攻・教授	形態形成機構学 博士(医学)	工学部出身者への解剖教育
斎藤 通紀	サイトウ ミチノリ	41	医学研究科・医学系専攻・教授	分子生物学・発生生物学・幹細胞生物学 博士(医学)	体性幹細胞の増殖基盤の解析
松田 道行	マツダ ミチユキ	53	医学研究科・医学系専攻・教授	実験病理学 医学博士	病理学の教育・実習・研究指導
羽賀 博典	ハガ ヒロノリ	45	医学研究科・医学系専攻・教授	病理診断学 博士(医学)	病理学の教育・実習・研究指導
岩田 想	イワタ ソウ	48	医学研究科・医学系専攻・教授	線結晶構造解析、膜蛋白質、放射光 博士(農学)	基礎医学の教育・研究指導
野田 亮	ノダ マコト	59	医学研究科・医学系専攻・教授	分子腫瘍学 医学博士	基礎医学の教育・研究指導
篠原 隆司	シノハラ タカシ	43	医学研究科・医学系専攻・教授	生殖生物学 博士(医学)	基礎医学の教育・研究指導
金子 武嗣	カネコ タケシ	56	医学研究科・医学系専攻・教授	高次脳形態学 医学博士	大学院博士課程初年度生に対する神経解剖学の講義と脳実習
河野 憲二	カワノ ケンジ	62	医学研究科・医学系専攻・教授	神経生理学 医学博士	システム神経科学の教育、脳の生理学の講義及び実習
大森 治紀	オオモリ ハルノリ	62	医学研究科・医学系専攻・教授	神経生物学 医学博士	聴覚神経回路機能の研究・教育と新しい分子プローブ、光学計測機器の開発・応用
木村 剛	キムラ タケシ	55	医学研究科・医学系専攻・教授	循環器内科学 医学博士	循環器学の教育・研究指導
三嶋 理晃	ミシマ ミチアキ	60	医学研究科・医学系専攻・教授	呼吸器病学 医学博士	附属病院長・臨床実習の円滑な運営支援
平岡 真寛	ヒラオカ マサヒロ	60	医学研究科・医学系専攻・教授	放射線腫瘍学・画像応用治療学 医学博士	非侵襲的治療、特に放射線治療に関する新たな機器・システムの開発
富樫 かおり	トガシ カオリ	57	医学研究科・医学系専攻・教授	画像診断学 医学博士	画像診断学の指導と機器実習、研究指導
一山 智	イチヤマ サトシ	57	医学研究科・医学系専攻・教授	臨床検査医学・感染症学 医学博士	臨床検査の教育・研究指導
坂井 義治	サカイ ヨシハル	56	医学研究科・医学系専攻・教授	消化管外科 医学博士	内視鏡下手術の教育と実習、研究指導
戸井 雅和	トイ マサカズ	54	医学研究科・医学系専攻・教授	乳腺外科学 医学博士	乳腺の検査法の教育と実習、研究指導
小西 郁生	コニシ イクオ	60	医学研究科・医学系専攻・教授	婦人科腫瘍学 医学博士	産婦人科の教育と実習、研究指導
小川 修	オガワ シュウ	54	医学研究科・医学系専攻・教授	泌尿器科学 医学博士	内視鏡の教育と実習
坂田 隆造	サカタ リュウゾウ	62	医学研究科・医学系専攻・教授	心臓血管外科学 医学博士	心臓外科の教育・研究指導
鈴木 茂彦	スズキ シゲヒコ	59	医学研究科・医学系専攻・教授	形成外科学 医学博士	形成外科の教育・研究指導
吉村 長久	ヨシムラ ナガヒサ	59	医学研究科・医学系専攻・教授	眼科学 医学博士	眼科学医学の教育・研究指導

(機関名: 京都大学 申請類型: 複合領域型(生命健康) プログラム名称: 充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成25年度における役割)
伊藤 壽一	イトウ ジュイチ	62	医学研究科・医学系専攻・教授	耳鼻咽喉科・頭 頸部外科学 医学博士	耳鼻咽喉科学の教育・研究指導
松田 秀一	マツダ シュウイチ	46	医学研究科・医学系専攻・教授	整形外科 医学博士	整形外科の教育・研究指導
藤田 潤	フジタ ジュン	61	医学研究科・医学系専攻・教授	分子病診療学 医学博士	医療倫理の授業
高橋 良輔	タカハシ リョウスケ	53	医学研究科・医学系専攻・教授	神経内科学 医学博士	臨床神経学の教育・研究指導
宮本 享	ミヤモト スム	54	医学研究科・医学系専攻・教授	脳神経外科 医学博士	臨床医学の教育・研究指導
小杉 眞司	コサキ シンジ	54	医学研究科・社会健康医学系専攻・教授	医療倫理学・遺伝 治療学 医学博士	医療倫理学教育
前川 平	マエカワ ヒラ	59	医学部附属病院・輸血細胞治療部・教授	血液学・輸血学・ 細胞治療 医学博士	臨床医学の教育・研究指導
細田 公則	ホシダ キミノリ	53	医学研究科・人間健康科学系専攻・教授	糖尿病学 博士(医学)	生活習慣病に関する教育・研究指導
桂 敏樹	カヅ トキ	57	医学研究科・人間健康科学系専攻・教授	予防看護学 医学博士	予防看護学に関する教育・研究指導
木下 彩栄	キノタ アヤエ	47	医学研究科・人間健康科学系専攻・教授	在宅医療看護学・ 神経内科学 医学博士	認知症に関するシステム開発・教育・研究指導
足立 壯一	アダチ ソウイチ	51	医学研究科・人間健康科学系専攻・教授	血液学・小児科 学 医学博士	血液検査学に関する教育・研究指導
椎名 毅	シナイ ツヨシ	54	医学研究科・人間健康科学系専攻・教授	生体医工学 工学博士 博士(医学)	人間健康科学専攻が関与する教育・研究指導と統括
杉本 直三	スギモト ナオユウ	49	医学研究科・人間健康科学系専攻・教授	医用画像情報学 博士(工学)	医療画像処理に関する教育・研究指導
黒木 裕士	クロキ ヒロシ	53	医学研究科・人間健康科学系専攻・教授	リハビリテーショ ン理学療法学 博士(医学)	在宅リハビリテーションに関する教育・研究指導
市橋 則明	イチハシ ノリアキ	52	医学研究科・人間健康科学系専攻・教授	理学療法学 博士(医学)	人体のバイオメカニクスに関する教育・研究
二木 淑子	フタキ トシコ	59	医学研究科・人間健康科学系専攻・教授	リハビリテー ション科学 博士(医学)	リハビリテーション科学に関する教育・研究指導
荒井 秀典	アライ ヒデアキ	52	医学研究科・人間健康科学系専攻・教授	老年医学 医学博士	加齢医学の教育・研究指導
小寺 秀俊	コテラ ヒデアキ	55	工学研究科・マイクロエンジニアリング専攻・教授	マイクロTAS・マ イクロシステム 博士(工学)	プログラム全体の運用、教育カリキュラム開発(FD)、学生の研究指導
木村 俊作	キムラ シュンサク	58	工学研究科・材料化学専攻・教授	生体関連物質化 学 工学博士	「ナノメディスン拠点形成の基盤技術開発」、「新規両親媒性乳酸系ポリデンプレペドを用いた分子プローブの開発に関する研究」、「ラクトソームプロジェクト」の研究指導
白川 昌宏	シラカワ マサヒロ	51	工学研究科・分子工学専攻・教授	分子生物学 構 造生物学 理学博士	生物物理・物理化学に関する教育と生体計測、構造生物学に関する研究や技術指導
秋吉 一成	アキヨシ カズシゲ	54	工学研究科・高分子化学専攻・教授	生体機能高分子 工学博士	ゲルソフトマターの医療応用についての教育
森 泰生	モリ ヤスオ	52	工学研究科・合成・生物化学専攻・教授	分子生理学 医学博士	生体関連分子の生物学的意義と生体内動態の解明、病態関連分子の検出用プローブの開発などに対する指導
濱地 格	ハマチ イタル	51	工学研究科・合成・生物化学専攻・教授	生命化学/工学 工学博士	ナノテクノロジー・ナノメディスン領域の最先端教育及び学際領域の高度な先端知識の系統的な教育
中部 主敬	ナカベ カズヨシ	54	工学研究科・機械理工学専攻・教授	熱流体工学・マイ クロフルイディク ス 工学博士	機械理工学に関する教育・研究指導
大嶋 正裕	オオシマ マサヒロ	53	工学研究科・化学工学専攻・教授	高分子成形加工 工学博士	化学工学に関する教育・研究指導
近藤 輝幸	コンドウ テルユキ	50	学際融合教育研究推進センター・先端医工学研究ユニット・教授	分子プローブ合 成 工学博士	分子プローブの設計・合成・機能評価に関する融合教育・研究指導
佐治 英郎	サツ ヒデアキ	60	薬学研究科・薬学専攻・教授	病態機能分析学 薬学博士	薬学に関する教育・研究指導
橋田 充	ハシダ ミツル	60	薬学研究科・薬学専攻・教授	薬剤学・薬物動態 学 博士(薬学)	薬学に関する教育・研究指導
掛谷 秀昭	カケヤ ヒデアキ	46	薬学研究科・医薬創成情報科学専攻・教授	ケミカルバイオ ロジー 博士(工学)	薬学に関する教育・研究指導

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成25年度における役割)
中山 和久	ナカヤマ カズヒサ	53	薬学研究科・医薬創成情報科学専攻・教授	分子細胞生物学 医学博士	薬学に関する教育・研究指導
後藤 励	ゴトウ レイ	39	経済学研究科・次世代研究者育成センター・特 定准教授	医療経済学 博士(経済学)	医療経済学の教育と演習
岩田 博夫	イワタ ヒロオ	62	再生医科学研究所・教授	医用材料 工学博士	副プログラムコーディネーター
田畑 泰彦	タハタ ヤスヒコ	53	再生医科学研究所・教授	バイオマテリアル 再生医工学(組織工 学)工学博士・医学博 士・薬学博士	バイオマテリアル、ドラッグデリバリーシステム (DDS)、組織工学などの医工学領域の教育と教育研究 メンター
戸口田 淳也	トグチタ ジュンヤ	55	再生医科学研究所・教授	再生医学、整形外 科学 博士(医学)	筋骨格系病態のトランスレーショナルリサーチを題材 とした、次世代再生医学・医療に貢献できる医工学研 究者の育成
安達 泰治	アタチ タイジ	44	再生医科学研究所・教授	バイオメカニクス 博士(工学)	幹細胞の分化・発生・再生に及ぼす物理的環境因子を 理解し制御するための基礎力学教育
開 祐司	ヒラキ ユウジ	59	再生医科学研究所・教授	細胞生物学(結合組織 の分子細胞生物学)理 学博士	高齢化社会での身体機能の保持に不可欠な(骨格組織 を含む)結合組織形成の分子細胞生物学的学理の教育
瀬原 淳子	セハラ アツコ	58	再生医科学研究所・教授	発生生物学・細胞 生物学 医学博士	器官形成・再生機構や幹細胞に関する教育、およびそ れらの原理を応用した医療技術の開発研究、器官再生 の解明に必要な顕微鏡観察技術の開発
長澤 丘司	ナガサキ ヒサシ	50	再生医科学研究所・教授	免疫学・血液学・ サイトカイン学 医学博士	生体での生命現象を理解するという新しい新し い生命科学観を教育
河本 宏	カワモト ヒロシ	50	再生医科学研究所・教授	免疫学 血液学 医学博士	生体防御と免疫学の基礎を教育
森 重文	モリ シゲフミ	61	数理解析研究所・教授	代数幾何 理学博士	基礎数理に関する教育・研究指導
岡本 久	オカモト ヒサシ	55	数理解析研究所・教授	数値解析学 理学博士	医学に関係する応用流体力学の基礎教 育・研究指導
山田 道夫	ヤマタ ミチオ	57	数理解析研究所・教授	応用数学・流体 力学 理学博士	流体系モデリング・数値解析の基礎・演 習教育および研究指導
寺西 豊	テラニシ ユカ	65	医学研究科・「医学領域」産学連携推進機構・特 定教授	知的財産経営学 工学博士	知的財産分野に関する教育・研究指導
石井 加代子	イシイ カヨコ	53	医学研究科・「医学領域」産学連携推進機構・ 研究員	科学技術政策・社 会論・認知科学 理学博士	プログラムの企画・運営、プログラム内 および外部との調整

(機関名:京都大学 申請類型:複合領域型(生命健康) プログラム名称:充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム)

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

世界的に人口の高齢化が広がる中、世界最長の健康寿命と先端的研究開発能力という条件を合わせ持つ日本では、高齢化社会の問題を俯瞰し、メディカルイノベーションを通じて充実した健康長寿社会を達成する人材を、世界に輩出することが急務となっている。そこで、本プログラムでは、Ⅰ. 工学技術を医療・支援システムへ適用し、Ⅱ. 医学の中に蓄えられた知識を工学に活用するという2方向から、具体的な解決法を創案し、豊かな健康長寿社会の構築を推進出来る「総合医療開発リーダー」を育成する。

<概要：人材育成のねらい>

Ⅰ. 真に医学・医療が分かる医工学人材

本プログラムでは、工学系学生に、医学部卒業生と同等の医学・医療知識を教育し、「真に医学・医療が分かる」医工学人材を育成する。医療支援現場の実習や医療倫理学を通じて、利用者にとって負担の少ない「高齢者に優しい」機器・システムを開発するセンスを涵養する。医療経済学・許認可制度の知識に基づき、機器・システムの産業化・市場の予測をできる能力を養う。国際標準化の知識や、英語による卓越したコミュニケーション能力を備え、国際標準化機構などで活躍できる人材を育成する。

Ⅱ. 医学の中に蓄えられた知識を多分野に発展させるリーダー

世界の他地域に先駆けて高齢化社会を迎える日本で、健康寿命が世界最長であるという背景を活かし、高齢者が自立して社会参加するのに適した社会システムや新産業を創出できる人材を育成する。更に、この“日本モデル”を先達として世界の健康長寿向上を牽引できる人材を育成する。

これらⅠ.及びⅡ.のリーダー人材を輩出し、新たな学際的研究開発の推進を可能とすることによって、充実した健康長寿社会の構築に貢献することを目的とする。

<特色：プログラム内容>

Ⅰ. 医療現場のアイデアと先端的技术を医工学の研究開発成果に繋げ、迅速に医療支援機器・システムとして社会実装する能力を養うため、工学系学生に人体解剖学・生理・病理学などの基礎医学教育と病院内実習を課す。各履修生に複数分野の教員による綿密な討論・指導を行う。更に、世界の多様な地域社会での普及活用を推進する能力を養うため、医療経済学・産業化・国際標準化に関する知識と、英語によるコミュニケーション能力を育成する。

Ⅱ. 高齢者が出来るだけ自立して社会参加できる、住環境・移動通信・医療介護などにわたる社会システムを構築する際に、医工学の背景に基づいて関連アイデアや情報を創案・流通・推進する能力が求められる。そのため、高齢者の価値観・生活様式や加齢医学、医療倫理、広範な社会情勢を理解する能力を育成する。産業界や公的・国際機関での、情報統合・立案に関する実践的研究を通じ、俯瞰力と遂行能力を涵養する。

<優位性：京都大学の強み>

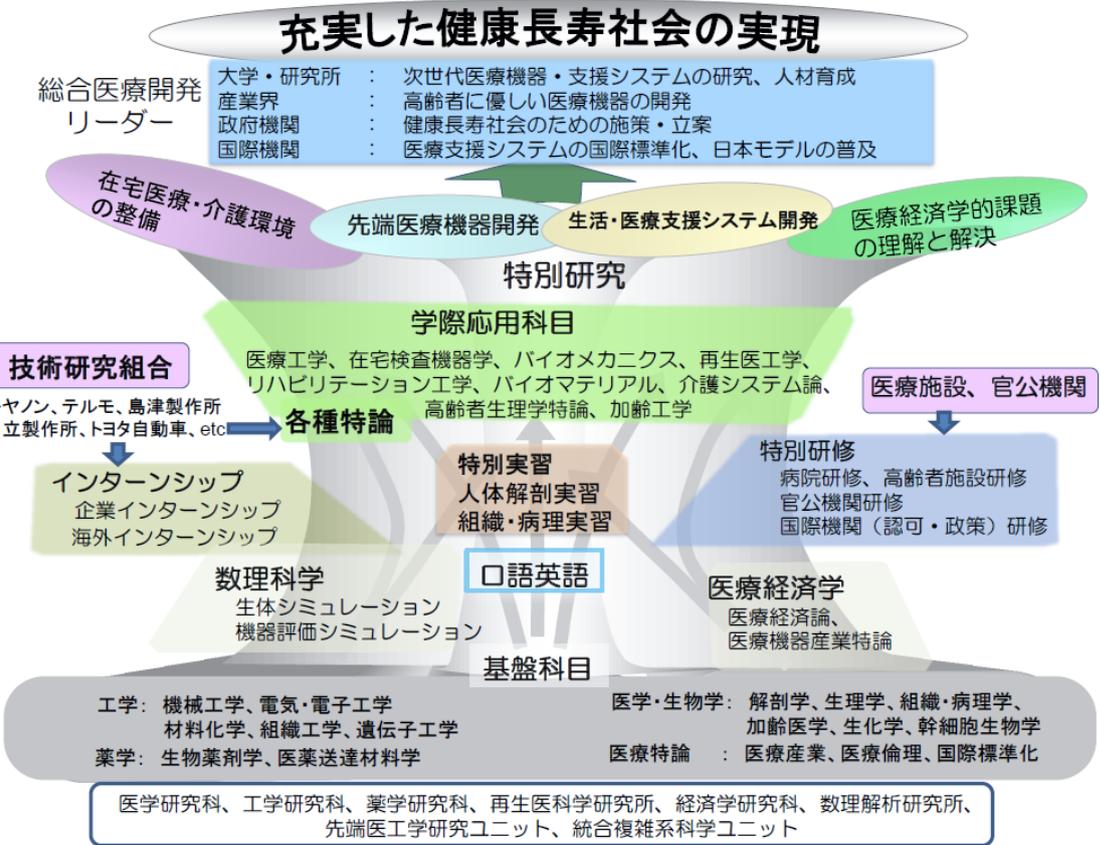
京都大学は、1897年の開学以来、総合大学としての体制を整え、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめることを基本理念としてきた。生体医療工学センターなど、医工学から臨床医療につながる研究体制を整備してきた。大学院教育のあり方についても、医工情報学連携コースなど新しい試みを続けている。再生医科学研究所、数理解析研究所などで、工学・応用数学や医学の複数領域を横断する高度な研究が進められている。部局横断型の教育研究プロジェクトを行うユニット（先端医工学研究ユニット、統合複雑系科学国際研究ユニット、等）を調整・支援する全学的組織として学際融合教育研究推進センターが設置されている。又、過年度のリーディング大学院プログラムの申請・採択を契機に、全学的運営を実施する体制も拡充しつつある。産学連携については、京都大学は、産官学連携本部やメディカルイノベーション推進室を設置し、複数企業と組織的・包括的連携を実施してきた。この一部企業が、当プログラムの企画にも協力し、協賛企業として教育研究へ参加することに同意している。

このように、専門分野の強みを活かしつつ全学的な運営体制を敷き、産学が連携して学際的人材育成と研究開発を実施し、メディカルイノベーションに発展させる体制が整備されている。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたリグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

「総合医療開発リーダー育成」プログラム履修とその出口



	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
研究		プレリサーチ (研究室ローテーションによる研究方法、テーマの検討と、研究発表)	特別研究 (ORT: On the Research Training)		
演習・実習		・企業インターンシップ (トップレベルの開発現場を知る、 ・短期海外研修 特別研修 (病院、高齢者施設、官公機関、国際機関) (医療現場他を知る)	・特別実習 (人体解剖、組織・病理) (人体を知る)		
講義		医療工学特別講義 (技術研究組合の企業からの講師派遣) 数理科学科目 基盤科目	学際応用科目 医療経済・倫理学科目		
		英語で Debate (国際的リーダーの育成)			

↑ 入学試験 (研究科) ↑ リーディングプログラム履修生選抜 ↑ リーディングプログラム中間評価 ↑ 学位審査

博士(医科学・人間健康科学・工学・薬科学)学位を授与+「リーディングプログラム」修了を証す

機 関 名	京都大学
プログラム名称	充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム
<p>[採択理由]</p> <p>本プログラムの中核をなす「総合医療の開発」という問題は、超高齢化を迎える我が国にとって、重要な研究開発分野であり、かつ、グローバルリーダーも求められる領域である。高水準の「総合医療」を実現するためには、医師等の医療系人材のみでは全く不足であるという認識に基づき、多彩な非医学部領域の人材を集め、医学部出身学生に匹敵する医学・生物学の基礎知識をもつ医工学技術者を養成するという壮大な目的を掲げたプログラムであり、リーダーに求められる資質も明確に定義し、リーダーの育成を強く意識したプログラムになっている。</p> <p>工学系学生に医学教育を行い、融合領域の人材を育成しようとする目的は明確であり、提案では、講義・演習・研修・学位研究などが体系的に組織されており、その内容及びこれまでの京都大学の実績から考えて実現性は高いと考えられる。本プログラムでは、主たる対象を工学系の学生とし、医学系研究科（基礎および臨床）の教員が中心となって、座学だけでなく、実習コース等も取り入れ、具体的な人材育成を提案している点が評価される。</p> <p>京都大学は数十年にわたる医工学融合領域の研究の実施もあり、また、医学領域の研究・教育のレベルも高く、さらに、教育に使用することが出来る資源も充足しているので、「総合医療」を開発するリーダーが育成されることが期待できる。</p> <p>医学部出身学生に匹敵する医学・生物学の基礎知識を有する医工学人材を作るためには、学生自らが、実験・実習により生命とは何かを体験することは極めて重要であり、プログラムにあるような人体解剖実習などを非医学部学生に実体験させることなどにより、かけ声だけの医工連携を根底的に改革するブレイクスルーとなることを期待したい。</p>	